

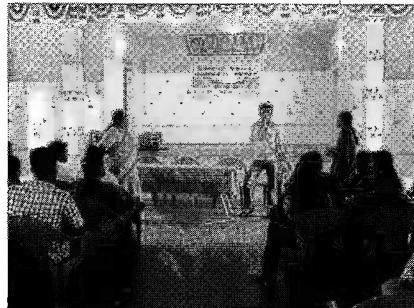
インド ダリット女性によるプロジェクト“ 届いていない人びとに届ける”

2013年4～9月中間実施報告

IMADRのパートナー団体であるSRED（農村教育開発協会、タミールナドゥ州）は、連合“愛のカンパ”の支援を受けて、2011年より5カ年計画“届いていない人びとに届ける”を実施している。3年目になる2013年の中間実施報告が届いたので概要を紹介する。



SREDに集まる子どもたち



アンパドカルコースのスクーリング

ダリット女性はダリットと女性という複合的理由により、社会的にも経済的にも脆弱にされ、政治的意見の機会を奪われている。ダリット女性は暴力的な状況にさらされており、そこから逃れることが難しい。こうした挑戦を乗り越えるため、SREDは、“届いていない人びとに届ける”として、ダリットの解放と開発のための教育とトレーニングのプログラムを進めている。

1. アンパドカル学習^{※1}

正義、平等、非差別のためのアンパドカル学習コースは、ダリットの学生と若者を対象にした1年間の通信教育プログラムである。月例のスクーリングでは、座学、ダリットのリーダーとの交流、ダリットの闘いと成功事例の経験共有などが行われ、意識高揚の歌、太鼓のトレーニング、ロールプレイ、絵画などもとりあげている。

スクーリングは毎月第二土曜日に12の村で行われる。各村には6～8人の受講生がいて、全体で123人（女子74人、男子49人）が受講している。

2. 退学防止のための夜間クラス

ダリットの子どもたちは学校で不平等で差別的な扱いを受けている。そのため、多くの子どもたちは授業についていけなくなる。子どもたちが退学しないために、また他の生徒と同じように力を発揮できるよう、SREDは18のダリットの村で夜間クラスを開き、学習指導をしている。

教室で子どもたちは、理科、数学、英語など、授業の復習をしたり、宿題をする。知識や力をつけるための総合的な学習も行われる。夏休みにはリーダーシップ養成、スキルトレーニング、文化トレーニングなどの特別集中講座がある。

各村から、高等教育を終えた若者一人が教員として選ばれる。生徒の年齢は10歳から

15歳、授業は夕方5時から7時までである。SREDは月に一度、SRED本部にあるカラルセンターで18人の教員に特別トレーニングを行なっている。

夜間クラスに通う子どもたちは不安や恥づかしさを克服し、自信をもつようになる。学校の授業に興味をもち、課外活動にも参加するようになった。授業中、先生の質問に積極的に答えるようにもなった。子どもたちは苦手な科目が好きになり、学校を休まなくなった。

3. スキルとトレーニングと能力育成

a) スキルトレーニングのために、15日間のトレーニングを開き、セックスワーカーやマタマ^{※2}の女性たち30人が参加した。紙コップ作り、ナプキン作り、網のバッグ作りの技術を習い、必要な知識を学んだ。最後に受講者たちは小規模事業に関するガイダンスを受け、終了後、それぞれ商売に関わり始めた。

b) 縫製と刺繍のトレーニングは3ヶ月間続く。前期には7つの村でトレーニングを行なった。各村、10人程度の若い女性が受講した。トレーニングは本格的で、修了後には縫製工場、テーラーショップ、自営業など、女性たちの職探しも支援する。また受講生の中からトレーナーを養成し、新しい受講生たちに縫製や刺繍の技術を教えるようになる。

c) 共同農場

マラレディ・カンディガイとマハラジャラムのダリット女性20人からなるチームが、共同農場促進のためのトレーニングを受けた。農場での実地研修に加え、月1回の屋内での授業も行った。女性たちはそれぞれ政府よりもらい受けた土地を寄せあい、共同で土地を耕している。

トレーニングはリーダーシップの養成、共同農場および有機農業の運営、食の安全、堆肥作りなどに亘る。政府からもらい受ける土地はたいてい丘陵地帯にあり、岩や石が多く、

食物栽培には適していない。そのため、まずは土地をならして耕作に適するようにした。女性たちはトラクターを購入し、自分たちで操作方法を学んだ。

参加した女性たちにナッツや豆の有機種苗を配布した。収穫が終わったら、もらった種をSREDに倍にして返すことが条件だ。女性

たちには短期間でたくさん育つ種苗を配布した。

トレーニングにより女性たちは自分たちの村で自然の材料を使って堆肥を作りはじめた。彼女たちの取り組みは村の他の女性や農民の刺激となり、有機農法への関心が高まっている。

ネパール ダリット女性の保健と健康の向上のために FEDOパルサ支部による保健サービスを受ける権利のためのプロジェクト 2013年4月～9月中間実施報告

FEDO（フェミニスト・ダリット協会）は20年以上ネパールのダリット女性の諸問題に関する活動を行ってきた。FEDOパルサ支部は、ネパール中部のシルシヤVDC（村落開発委員会）とビルグング市で、地元の行政の協力と日本の浄土宗平和協会の支援を受けて、5カ年計画でこのプログラムにとりくんでいる。3年目にあたる2013年の前期の活動報告がFEDOパルサ支部から届いた。

世界が進歩を遂げている中、ネパールのダリット女性は、女性に対するさまざまな形態の暴力や保守的な文化・伝統などにより抑圧的な状況におかれている。ダリット女性たちの健康や教育の現状を見れば、彼女たちが進歩から取り残されていることがよく分かる。FEDOパルサ支部はこうした女性たちの状況を改善し、保健サービスを受ける権利について学ぶプロジェクトに取り組んでいる。

プロジェクトのもと、ダリット女性グループの強化、各戸訪問による啓発活動、地方自治体とその他の利害関係者との調整や協力、ピア（仲間同士）学習研修活動、行政へのロビー活動、村・町・市役場との相互交流、ピアトレーナーとの相互交流、安全な母性に関するトレーニング、衛生意識高揚のための集会を行っている。

2013年前期は予定通り順調に進んだ。パルサ支部の16の女性グループは定期的に会合をもち、衛生の問題と母子保健の問題についてトレーニングを受け、話しあいをしてきた。トイレ設備が各戸にないことが大きな衛生問題として残ったままである。

地域の女性たちがFEDOパルサ事務所へ気軽に立ち寄り、保健や健康について相談できるよう、宣伝をしてきた。モニターをしていないので正確な数字は分からないが、女性たちが行政の保健サービスについて学んだことにより、妊娠期間中あるいは出産時に保健所を訪れるダリット女性の数は以前より増えているようだ。女性たちに、早婚と出産時のリスクの高まりの関係について理解してもらうにはまだ難しさがある。これはパルサ支部に

とって重要な課題である。

パルサ支部はダリット女性の保健サービスへの平等なアクセスのために、トレーナーやピア教育者の協力をえながら、各グループが地元の各戸を訪問し、住民に保健問題に関心をもってもらう活動をしている。そのためにピア教育者を育てるトレーニングをしている。ピア教育者を通してダリット女性と子どもたちの保健教育を行ない、コミュニティの健康問題を改善することが目的だ。3人のファシリテーターによる3日間のピアトレーニング（5月26～28日）に35人が参加をした。トレーニングのテーマは、性感染症、肺結核、膀胱炎、HIV/AIDS、栄養不良、下痢、他であった。

行政機関へのロビー活動やそれら機関と協力関係を築いてきたことで、前期には次のような成果があった。ケディヤ眼科病院は53人のダリット女性に眼に関するトレーニングを提供した。53人のダリット女性が無料の眼の検診を受けた。3人のダリット女性が無料で眼の手術を受けた。全国結核回復協会（NATA）が提供する結核啓発プログラムを、14人のダリット男性と36人のダリット女性が受けた。ダリットの100世帯がヒマラヤ社会福祉協会から結核とHIV感染反応検査のトレーニングを受けた。ガハワの20人のダリット女性が結核とHIVに関する啓発トレーニングを受けた。

こうしたプログラムを通して、女性たちは家族計画の方法について知るようになり、屋外での排泄・排便習慣を変えるようになった。また5つの女性グループが保健活動のためにグループ貯金を始めた。



FEDOパルサ支部の女性たち



グループ会議で熱心に聞き入る女性たち

※1 アンパドカルはダリット解放運動の指導者であり、インド憲法の起草者。

※2 幼女をヒンドゥーの女神に捧げる習慣。捧げられた女子はマタマと呼ばれる。